

第3回熊谷市地域公共交通会議

- 日時 平成21年7月27日(月曜)午後1時30分から3時30分まで
- 場所 熊谷市役所303会議室
- 出席者 委員20名、随行1名、熊谷市4名
- 欠席者 委員1名

- 内容 (1) 国際十王バス株式会社の取組みについて(報告)

- 籠原～日赤間のバス運行(減便)

- 赤字路線であり、1週間の乗降者の調査をした。
 - 調査結果に基づき平成21年8月1日から減便をする
 - 平日57本⇒33本 休日42本⇒28本

- うちわ祭パーク&ライド

- 今年で2年目の取組み。

- スポーツ文化公園⇔熊谷駅 片道15分間

- 特にトラブルも無く運行できた。

- (利用者数) 21日:のべ485名 22日:のべ718名

- (課題) 熊谷駅で乗客を乗せるとき、お客が集中しすぎて、乗せることができない場合が出てしまった。

- 質疑応答

- ・赤字だから減便することについて、国の立場ではすぐにOKをだしてしまうのか。公共交通であるから簡単に受け入れるのか。

- ⇒届出は受ける。

- ・企業だからしょうがないが、赤字を解消するために減便ではなく他の方法を模索して欲しい。

- (2) ゆうゆうバスアンケート結果について(資料1)

- アンケート数 1,136通

- 質疑応答

- ・アンケート結果を見ると、料金を上げてバスを充実して欲しいとあるが、どれくらいあげれば良いのかわかりにくい。

- (3) 循環バス運行についての意見交換(資料2,3)

- 【利用者の意見】

- ・江南地区の人は、バスは熊谷駅への接続を望んでいる。

- ・江南地区の人は、籠原駅へ接続しても喜ばない。

- ・妻沼地区では、循環を便利に使っている。行政センターと各駅の往復ルートは使いにくい

- ・料金は上げてもいい。ルートを妻沼地区で広げて欲しい場所がある。大田小学校周辺と上須戸地区。増便は費用がかかるが、ルートを広げるのは費用がかからないように思う。
- ・路線バスは料金が高い。循環バスは、時間がかかるが安いので良い。
- ・江南地区から熊谷駅まで送迎している家庭を多く見かける。
- ・新しいルートの設定には、地元自治会との調整が必要だ。自分だけでは決められない。

【循環バス業者の意見】

- ・循環バスを運行するには、車検等の場合に必要となる代車も買わなくてはならない
- ・7時～21時の運行では、バス1台について運転手が2名必要

【タクシー業者の意見】

- ・循環バスの利用が少ない場所には「乗合いタクシー」を運行することも視野に入れて欲しい。
- ジャンボタクシー：9人乗り

【行政への意見】

- ・新しい循環バス設定には、裏づけとなる調査、数字が必要ではないか。
- ・バスが新しいルートを通る場合、道路管理者には、バスのサイズを知らせるようにして欲しい。
- ・地球温暖化対策を目的におくのであれば、バスの選定にも燃料も環境に配慮したほうが良いのでは。

3 その他

(1) 小委員会の設置について

一段と踏み込んだ意見交換をし、現実的なルート素案を作成するため小委員会を設置したい。

～～承認～～

- 目的 循環バスルートの素案作成
- メンバー 市内バス・タクシー業者、市民代表者、市民団体代表者、国、県
- 第一回会議 10月2日（金）14時 303会議室
ただし、非公開